

平成26年6月26日  
(資料提供)

(事務担当)  
所属名：農林総合研究センター  
農業試験場 総合研究部  
病害虫防除室  
直通：257-6972

### 平成26年度病害虫発生予報第3号について

今後発生が予想される、水稻、大豆、果樹、野菜、花きの病害虫の、発生時期や発生量、防除上の注意事項などを掲載する。

1 予報期間 7月1日～14日

2 予報内容

(1) 水稻

いもち病の発生はやや多と予想される。一旦発生すると急進展する恐れがある。発生状況の把握に努め、発病が認められたら直ちに防除する。

紋枯病の発生はやや多と予想される。前年に発生したほ場や茎数の多いほ場は多発する可能性がある。粉剤での防除は、イネの出穂前10～14日が適期である。

斑点米カメムシ類の発生はやや多と予想される。生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで農道、畦畔、休耕田および遊休地等の除草を徹底する。7月中に出穂する早生は、出穂後2回の防除を徹底する。

(2) 果樹

カメムシ類の発生はやや多と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

アブラムシ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

シンクイムシ類の発生はやや多と予想される。発生初期の防除を徹底する。

(3) 野菜・花き

オオタバコガの発生はやや多と予想される。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。発生初期の防除を徹底する。

アザミウマ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。